

平成29年度 弘前市総合計画審議会議事概要 (第7回)			
日 時	平成29年10月31日 (火) 15時00分～17時00分		
場 所	弘前市役所3階 防災会議室	傍聴者	0人
出 席 者	委 員 (18人)	森会長、村松委員、高島委員、阿部委員、杉間委員、藤田委員、淀野委員、島委員、清野(眞)委員、清野(智)委員、熊谷委員、北村委員、鈴木委員、山形委員、米塚委員、浅利委員、一戸委員、三上委員	
	事務局 (5人)	ひろさき未来戦略研究センター副所長、ひろさき未来戦略研究センター総括主幹、ひろさき未来戦略研究センター総括主査、ひろさき未来戦略研究センター主査、ひろさき未来戦略研究センター主事	
	その他		
<b>会 議 概 要</b>			
1 開会			
2 議事			
次期弘前市総合計画の素案について			
○主な質疑等の内容は以下のとおり。			
①序章「新しい計画の策定について」			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この計画は市民に理解されないといけないうものだと考えるが、「エビデンス」という言葉は使い慣れない言葉であり、注釈をつけるなどの対応が必要ではないか。最近の市の広報の仕方を見ていると、カタカナや専門用語を多用していて市民に理解されず、結果として説明不足と受け止められてしまっているため、市民に対しては、市民目線での言葉の使い方にも注意する必要があるのではないか。</li> <li>→「エビデンス」に限らず、専門用語等については用語集を作成するなどして、わかりやすくする方法を検討している。また、例えば、「エビデンス」であれば「確かな根拠・証拠(エビデンス)」と記載しているように、丁寧に説明していきたい。</li> <li>・カタカナを多用するのは市民への説明としてはふさわしくないと、何年も前から言われている。「エビデンス」や「ロジックモデル」など新しい言葉が次々に出てくるが、市民はついていけないのでカタカナでそのまま表記するのではなく、既存の言葉で言い換えるなどして対応すべき。</li> <li>・「エビデンスの活用」と書かれているが、「確かな根拠・証拠に基づいて議論する」というのが正しい言葉の使い方であって、日本語としておかしいし、「エビデンス」という言葉を使わなくても意味は通じる。</li> </ul>			

→当初は、「エビデンスに基づく」と表現していたが、数値などのデータばかりを追い求めてしまうと市民感覚とかけ離れてしまうことが懸念され、データだけに頼るのではなく、市民の生の声や感性なども大切にしながら政策を進めていく必要があるという考えで「エビデンスの活用」という表現にしている。

## ②第2章「将来都市像の実現に向けて」

- ・「弘前市の歴史と風土」の中に、りんご産業に関する記述がない。弘前市の主要産業の中で、りんご産業は欠かせないものであると思うので、りんご産業に関する記載も加えるべきではないか。

→「弘前市の歴史と風土」の作成にあっては、りんご産業についても調べ、まとめているので、りんごに関する施策の部分でりんご産業の歴史についても記載する予定としている。

- ・「20年後の将来都市像」とあるが、基準となる20年後は現在の「経営計画」を策定した時点なのか、あるいは今、議論している「次期総合計画」の策定時点になるのか。

→現在の「経営計画」を策定した平成26年を基点とした20年後という整理である。

「次期総合計画」の策定から16年後の将来都市像という考えではなく、20年後の将来都市像に向けた第2期の計画というように理解していただきたい。

## ③第3章「現状と課題・今後の見通し」

- ・財政に関する記載があるが、この記載を見て弘前市の財政が青森市、八戸市などの他市と比べてどうなのかが理解できない。また、「他の都市とは異なる発想で取組を進める」と、計画の基本方針で述べているが、そうした場合、PDCAサイクルで健全な財政運営ができるのか。

→現状の財政に関する記載で弘前市の財政状況の良し悪しを判断することは出来ない。また、財政運営については、現在、多くの自治体で人口減少対策として、保育料や医療費の無料化などの対策を行っているが、地域間競争が激しくなっていることから、同じ取組で優位性を示すのではなく、弘前独自の取組で他との差別化を図りたいと考えており、結果的にはその方が健全な財政運営に資すると考えている。

- ・グラフや文章に出てくる金額の単位が、統一されておらず読みづらい。グラフによっては単位を揃えるのが難しいものもあると思うが、出来るだけ揃えて統一した方が市民にとってはわかりやすいのではないか。

→グラフや文章に出てくる単位については、今後改めて整理していく。

- ・今年度実施した地域経営アンケートの住みやすさに関する質問の結果が記載されており、4年前に現在の「経営計画」の策定の際にも同様の調査をして、結果もほ

ぼ同じであったとのことだが、比較するのであれば、前回の調査結果も掲載すべきではないか。

→4年前の調査と比べて何かしらの変化があることを期待して今年度調査したが、結果的に変化がなかったことから、今年度の調査結果のみを掲載している。

⇒4年前の調査でも同様の結果であった旨を記載すればよいのではないか。

- ・雇用情勢の記載に、市内大学生の地元就職率が減少傾向にあると書かれているが、実際の人数がどうなっているのか、また、雇用する企業が減少しているのか、あるいは学生の意向によるものなのか分析が必要ではないか。また、現状分析だけでなく、今後の目標についても、触れておくべきではないか。雇用情勢は非常に重要な部分であるので、内容が1ページで終わって良いのかと感じる。

→実際に人数については、検討する。現状分析や今後の目標については、大学と連携して取組んでいる事業の中で、目標値を設定しているので、現状分析についても掘り下げていきたい。

- ・今後、具体的な施策として婚活や子育てに関する支援が出てくると思うが、一番の問題になっているのが、若い女性の経済状況だと思うので子育て世代の所得の推移を示して階層ごとに分析すると、具体的な施策につなげていきやすいのではないか。また、所得についても県平均との比較ではなく県内三市との比較の方がわかりやすいのではないか。

→階層ごとの把握・分析が出来るかどうかは確認してみる。

⇒課題や現状分析を明確にして、課題や分析結果を踏まえての政策・施策であることをしっかり整理する必要があるのではないか。

- ・産業動向について、りんご産業への言及がない。また、農業だけでなく商工分野でも後継者不足という課題があるので、分野横断で検討してもいいのではないか。

→農業の担い手不足の課題については、施策の部分で分析して記載する方向で検討していたが、地域の課題として明確にすべき課題については、全体的なバランスも考慮しながら、第3章の「現状と課題・今後の見通し」に記載することも検討したい。

- ・文章とグラフとの関連がわかりづらい。文章で記載している部分が、グラフのどこの部分に入るのかわからない。

- ・弘前らしさということであれば、津軽塗を取り上げないといけないのではないか。津軽塗の振興のために、これまで市でも様々な取組をしてきたが、うまくいっていないので、課題としてあげるべきではないか。

→津軽塗については、具体的な施策の部分で課題として整理している。

#### ④第4章「将来都市像の実現に向けた戦略」

- ・施策に「基準値」と「目標値」を設定することとしており、目標を設定するのはい

と思うが、例えば、「婚活の支援」の施策など指標を数字で表すべきものではない施策もあるのではないか。

→指標については、基本的に数字で設定したいと考えている。ただ、施策の成果を指標のみで測るのではなく、指標以外の効果や市民・団体からの意見なども踏まえたうえで施策の評価をしていきたいと考えている。

- 「戦略の方向性」でも、市全体として目指すべき具体的な数字を示すべきではないか。序章から第3章まで、様々なデータを用いて現状分析をしてきているのに、第4章で抽象的な話になってしまうと、実現の可能性に疑問符がついてしまう。
- 以前も意見として出しているが、「オール弘前で推進する」とあるが「オール弘前」というのがわかりにくいので、表現を検討して欲しい。
- 第3章で、弘前市が住みにくい町だと感じる理由がデータとして出ているので、その理由にしっかりと向き合っていかなければならない。その理由に対する対策がここでは出てこないといけないと考える。
- 住みにくいと感じる理由に真摯に向き合い、今後の戦略に活かしていかないといけない。弘前らしさというものが全面に出てきていない。

#### ⑤「新経営計画マネジメントシステム」

- 抽象的な理論や行政の専門用語を市民に説明しても意味はないので、そうではなく、理論に基づいたマネジメントの仕方や具体的な評価の方法について書くべき。
- 計画を作った後も、どのように評価し、見直していくのかといった点についても、しっかりと計画に位置付けたいと考えているが、指摘のようにわかりづらいものになっている部分については、改めて表現や説明の仕方について検討したい。
- 当審議会以外に、50近くの審議会や協議会があるので、それをPDCAサイクルの中に明確に位置づけ、政策形成や実行、評価の段階でそれぞれの審議会の意見が反映される具体的な流れを記載してもらいたい。
  - 「ロジックモデル」などの専門用語に注釈がついていたとしても、そのような言葉になじみがない市民にとっては理解することができないと思う。一市民の立場から見たときに、専門用語があちこちにちりばめられている計画で本当にいいのか疑問を感じる。
  - 行政として、どういう世代に何を訴えたいのか、どのような方向に市民の行動を促していきたいのか、こういった点が見えてこないように感じている。結果的に、わかる人にしかわからない計画になっているので、誰に向けての計画なのかということをしっかり意識して計画策定を進めてほしい。
  - 「総合計画」という名称であれば、市全体が進むべき方向性を示した計画と理解されるが、「経営計画」となると行政が自治体を経営するための計画という行政向けの計画と理解されてしまう。「次期総合計画」が市民にも理解され、市民の共感を

生んで、市民と行政が同じ方向を向いて、未来に向かっていくというためには、計画の名称も含めて、現在の計画案では不十分だと感じる。

- ・第5章に記載されている「マネジメントシステム」は、計画の進め方や評価、見直しの仕方を書いており、言い換えれば、計画をしっかり進行管理していくという行政の決意の表れだと思う。そうであれば章のタイトルを「マネジメントシステム」というような表現ではなく例えば、「新しい計画を確実に進めるための方向」など市民にもわかりやすいものとするべき。

### 3 報告

弘前市総合計画審議会委員の任期について

- 事務局の説明に対し、委員からの質問・意見等なし。

### 4 閉会